

令和7年度 都市経済常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 水本定弘 (副委員長) 藤本恵祐 (委員) 杉本啓子 (委員) 花田慎
(委員) 菊池雅介 (委員) 加藤大嗣

2 観察日時

令和7年11月10日（月曜日）午後2時30分から午後4時00分まで

3 観察先

認定NPO法人まちづくりスポット仙台（宮城県仙台市）

4 観察事項

(1) まちづくりスポット仙台について

5 観察概要

	(担当 藤本 恵祐)
観察先選定理由	仙台市では、商業施設内に市民の交流スポットとして「まちづくりスポット仙台」が開設され、市民交流等の場として広く活用されている。 同施設での取り組みは、本委員会の政策提言テーマである「地域経済の活性化施策」について調査・研究を深めるうえで、同様の施設（「まちづくりスポット茅ヶ崎」）が存在する本市にとって、市民等と協働しつつ経済活性化に繋がる魅力あるまちづくりを進めるという観点から、貴重なヒントを得ることができた。
内容	1. 事業 ・事業概要 ・効果、推移 ・課題 ・今後の方向性 (1) 施設概要 →仙台市郊外に民間デベロッパーが商業施設（「ブランチ仙台」）を整備し（平成31（2019）年4月）、同デベロッパーの提案で施設内に市民・地域の交流拠点を設けることとなり、NPO法人を新たに立ちあげて運営開始。（全国に同様の施設が11拠点あり） (2) 施設開設の狙い →行政だけではまちづくりは加速せず、集客力のある商業施設から地域や人が連携し、商いも元気に続く持続可能なまちづくりのモデルを作る。 (3) 周辺地区（施設商圈）の現状 →市内4地区・約13,000世帯。人口減少に加え、高齢化率進展（41%）、小学校入学児童も減少傾向にあり、子育て世代層の定住が課題。 →町内会加入率は8割で低下傾向、空き家も増加 (4) 施設の事業目的

→「地域資源」を活かし、「地域」や「世代」を繋ぐ環境を作り、「多様な主体との協働」を生み出すことで、郊外住宅地における「コミュニティの再構築」や、安全・安心で「持続可能なまちづくり」に寄与する。「選ばれるアップタウン（山の手）」へ。

（5）施設のミッション

→①地域資源の利用促進、②コミュニティの再構成、③地域の情報収集・発信、④地域振興の担い手との連携、⑤スペースを活用した交流促進、⑥安心・安全なまちづくり



施設外観



施設内フロア



人気のキッズスペース



交流 BOX (棚)

2. 効果、推移

（1）利用状況

→商業施設のテナントやエリア住民が主体となって各種イベントを積極的に開催。利用団体の固定化が進み、利用促進のためのプロモーションを見直し予定。

→大学のサテライトキャンパス（国の助成制度あり）や高校生の勉強の場として開放。
→商業施設内の公園が街区公園よりも人気。

（2）推移

→来館者件数は13,539名（令和2（2020）年度）から37,066名（令和6（2024）年度）

～2.7倍の伸び。

→年間833件の相談。（令和6（2024）年度）

→NPO法人としての収支も安定。（約2,200万円ベース～令和6（2024）年）

	<p>度)</p> <p>→認定NPO法人となって、支援・寄付の受け皿が拡大。</p> <p>※詳細は参考資料参照</p> <p>3. 課題（委員会としての所見）</p> <p>→商業施設と一体化した交流拠点としての存在意義は大きいが、公営バス網がまだ機能しているとは言え、近い将来は高齢層市民の移動手段確保が必要。</p> <p>→多様な主体の連携・連帶も施設の事業目的の一つとなっているが、利用主体の固定化は施設としての魅力度向上と相反するため、利用主体の裾野拡大が必要。</p> <p>→当商業施設への過度な人流集中は、地域の既存店舗等の経営に大きな影響を与えてしまう可能性があり、地域全体の経済活性化という視点で、新たなWinWinの関係づくりが必要。</p> <p>→行政（福祉、教育、環境等）との適切な連携関係維持により、まちスポで集約された市民ニーズを積極的に施策や政策に反映させる仕組みづくりが必要。</p> <p>→デベロッパーの経済的・人的支援以外の運営・財務基盤強化策が必要。（運営ボランティアスタッフの募集、収益性の高い事業の展開等）</p> <p>4. 今後の方向性（取り組み強化策）</p> <p>→近隣NPOとの関係性の見直しと連携強化。</p> <p>→教育機関と連携し、若者世代と地域の関わりづくりを支援。</p> <p>→貸室案内の情報に加え、地域での取り組みや団体の活動レポートを付加して発信。（若者や団体の活動報告、町内会が収集したデータの共有等）</p>
考 察	<ul style="list-style-type: none"> ・本市との比較 ・本市への事業導入の可能性 ・今後の検討内容 <ul style="list-style-type: none"> ・本施設は本市のまちスポとも連携した活動を展開しており、人口減少や高齢化・少子化は共通課題でもあるため、先進的な取り組みについては、茅ヶ崎市としても適切な連携、支援を進めるべき。 ・本市のまちスポは「道の駅 湘南ちがさき」に近接した好立地となっており、両施設の適切な連携による新たな人的・経済的な交流や地域の活性化も期待できるのではないか。 ・まちスポ仙台が今後強化する、教育機関と連携した若者世代と地域の関わりづくり支援策について注視して行きたい。
備 考	<p>参考資料（まちづくりスポット仙台提供）</p> <p>(1) 令和6（2024）年度活動報告書</p> <p>(2) まちスポガイドブック（デジタル資料）</p> <p>(3) まちスポ仙台活動紹介（デジタル資料）</p>